

第2回経営審議会

議事概要

開催日:平成24年10月31日(水) 午後2時

場 所:附属図書館4階学習室

出席者:西室陽一理事長、加藤祐三副理事長、椎廣行理事、高田理孝理事、亀田孝夫委員、原護委員
重原達也総務課長

■理事長挨拶

西室陽一理事長よりあいさつ

(1) 平成24年度公立大学法人都留文科大学会計予算補正予算(案)について

○担当より資料1に基づき説明、審議の結果、提案通り承認。

補正予算額は減額分をその他の費用に充てているため、増減額は無し。

【単位:千円】

教職員人件費:61,655の減額(上半期執行状況及び下半期執行見込額により積算した結果による減額。)

教育設備費:20,528の計上(音楽棟のピアノの入れ替え。)

情報教育整備費:3,074の計上(学校教育の情報化の推進に対応するため、電子黒板の購入。)

学内情報網整備費:24,773の計上(平成25年度からの学内無線LAN導入のための初期費用。)

施設管理費:13,280の計上(避雷針の修繕、教室照明の修繕、学生休憩室のソファ購入等。)

(2) 平成25年度予算編成方針(案)について

○担当より資料2に基づき説明、審議の結果、提案通り承認。

1. 収入 学生の納付金(受験料、入学金及び授業料)と運営費交付金であり、外部資金は極めてわずかな状況である。外部資金については、科学研究費申請率の向上、資産運用及び施設の外部貸出し等により、外部資金の増加を図る。

2. 支出 これまでの予算執行状況を踏まえつつ、中期目標により要請されている自主・自律的な大学運営を行っていく。

平成25年度は教育環境の改善及び整備については、大規模な整備として本部棟・1号館通路段差解消工事を行う。(本部棟前広場にある階段の段差の解消。)

(3) 本学の今後の方向性について

○担当より資料3-1、資料3-2、資料3-3に基づきそれぞれ説明、審議の結果、提案どおり承認。

【資料3-1】 公立大学法人都留文科大学の今後の方向性について

【資料3-2】 都留文科大学を取り巻く入試動向調査について

【資料3-3】 大学の今後の方向性検討のための調査業務(最終報告)

3 報 告

(1) 都留市公立大学法人評価委員会平成 23 年度業務実績評価結果について

○担当より資料 4 について報告。総合的な評定「中期計画の進捗が順調である」の A 評価

→評価委員会において妥当性を検証したところ、一部に進捗の遅れはあるものの、概ね順調に推移しており評価委員会の総合評定は、法人の自己評価どおりとすることが妥当であると判断した。

- ・教職員一丸となった取り組みにより、柔軟で機動力のある経営の実現に向け、公立大学法人による大学運営は着実な歩みを見せてはいるが、自己評価の結果からも明らかなとおり、一部に緊張感を欠いた緩慢な対応が見受けられる。
- ・科学研究費の申請率の向上に向けた取り組みなど、いまだに低い水準にあり、研究者としての側面を対外的にどう担保しようとしているのか説明を求める。特に学生の学習環境の充実につながる F D や危機管理面についての取り組みは、早急な対応を求めるものである。
- ・数値目標に上げられている就職率の向上については、企業の採用計画は来年度も抑制傾向にあると予想され、引き続き厳しい就職活動が余儀なくされている。

(2) 平成 24 年度夏季及び秋季オープンキャンパス実施状況について

○担当より資料 5 に基づき報告。

- ・夏季オープンキャンパス 参加者:1849 名（県外:1261 名、県内:588 名）
- ・秋季オープンキャンパス 参加者:236 名（県外:162 名、県内:74 名）

4 そ の 他

○佐野夢加さんの件について

- ・ロンドンオリンピック 4×100R に最終走者として出場。現在も市民運動会への参加や講演会などの広報活動を行っている。

○山本美香さんの件につて

- ・都留市市民栄誉賞が贈られることとなった。

○職員の懲戒処分後の状況と試用期間の解雇について

- ・職員の懲戒処分後の状況と試用期間の解雇について報告した。